

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

三島市長 豊岡武士

市町村名 (市町村コード)	三島市 (22206)
地域名 (地域内農業集落名)	谷田(菖蒲沢)地区 (谷田)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和4年3月7日 (第1回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

当地区は、三島市南東部の中山間地である。露地野菜を中心に、一部で果樹・施設園芸が行われている。規模縮小農家、後継者不在農家が多く、地区内には規模拡大農家が少ない状況である。急傾斜地で機械による耕作ができない農地は、担い手が参入できないため耕作放棄地になる可能性が高い。

【地域の基礎的データ】

農業者:121名(うち農業を担う者:21名(うち認定農業者:13名))

面積:21.6ha(うち、田1.0ha 畑20.6ha)

主な作物:露地野菜(馬鈴薯・大根・人参・カリフラワー・セロリ・白菜・ブロッコリー・キャベツなど、多品目)・果樹

(2) 地域における農業の将来の在り方

果樹・施設園芸に関して、農地の集積・集約化を進めよりまとまった面積で耕作できるようにする。露地野菜は鳥獣被害対策を行うことで、収益性を上げる。この地区にあった高単価な品目の導入を検討する。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	21.6 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	21.6 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方

農振農用地区域内の農地において農業上の利用が行われる区域とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
経営主が離農する際には、農業を担う者に引き受けてもらうことで農地の集約化を図る。
(2)農地中間管理機構の活用方針
将来の集約化を目指し、農地の貸し借りは農地中間管理機構を通じ行うものとする。
(3)基盤整備事業への取組方針
農業の生産効率の向上や農地集積・集約化を図るため、農地の大区画化・汎用化等の基盤整備を検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
地域農業の継続を図るため、新規就農者の確保・育成や各種補助事業を活用して既存農家や集落営農の経営力向上を目指す。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
活用できるものがあるかどうか引き続き検討する。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

- ① 猟友会と連携し、被害状況の確認や捕獲体制の構築に取組む。また、市の有害鳥獣防除柵等設置事業費補助金の活用を推進し、侵入防止策や檻の設置に取組み、イノシシ、シカ等の侵入防止を図る。
- ③ ラジコン草刈り機などの導入により、農地を管理する方法を探る。
- ⑤ 露地野菜の栽培には適さない農地で果樹等を栽培することで、耕作放棄地の発生防止、鳥獣被害防止の緩衝帯へとつなげる。
- ⑩ 他市への転出や、未相続などにより所有者不明農地が発生しないよう、優良農地の見回りを継続的に行う。